

2025年度 事業報告書

きもち の エカタ

こどものためのダンスワークショップ  おじいちゃんのための子育て応援講座



芸術文化観光専門職大学

令和7年度 地域連携プロジェクト（豊岡市社会福祉課 こどもの居場所づくりのための意識調査事業）

目次

1. 事業概要.....	2
(1) 目的.....	2
(2) 概要.....	2
(3) 実施体制.....	3
(4) プログラム内容.....	4
①こどものためのダンスWS「ダンサーとあそぼう！うごきの実験室」.....	4
② 保護者のための「子育て応援講座」.....	5
2. 実施結果.....	6
(1) 参加人数.....	7
(2) 広報.....	8
(3) 参加者アンケート結果.....	9
① ダンスWS.....	9
② 子育て応援講座.....	11
(4) 参加者インタビュー.....	16
3. 事業成果.....	19
(1) 親子並行・体験共有型プログラムによる行動・意識変容の仮説.....	19
(2) こどものためのダンスWSの特徴とその構成要素.....	21
4. おわりに～地域展開に向けた考察.....	24
(1) 地域展開に向けて.....	24
(2) 検討事項と課題.....	24

1. 事業概要

(1) 目的

本事業は、発達の特徴からコミュニケーションや行動面で日常生活や社会生活に支援が必要な子どもたちとその保護者を対象としたプログラムを試行的に実施し、参加者の意識や関わりの変化を調査・分析することを通して、豊岡市における居場所づくりおよび発達支援に関する施策の充実に資する知見を得ることを目的とする。



(2) 概要

① 「きもちのミカタ」

プログラムは、前年度に続き、「きもちのミカタ」という名称で、こどものためのダンスのワークショップ（以下WS）と、親子のコミュニケーションをテーマとする保護者のための講座を同時開催した。

「きもちのミカタ」というタイトルの「ミカタ」には、「こどものきもちの味方になるう」・「こどものきもちの見方を知ろう」という2つの意味が込められている。

参加者は、親子もしくは保護者のみの参加が可能な形とした。初年度の2024年度は小学生を対象としていたが、今年度から対象を中学生まで広げ、年齢によりグループを2つに分けて実施した。

a. 対象：小学1～4年生と保護者（全3回）※

日時：2025年10月4日（土）・10月25日（土）・12月6日（土）

午後1時30分～4時

※実施を予定していた11月15日（土）は、参加申込が1組だったため、申込者に相談の上で中止した。

なお、15日の申込者は複数組の申込があった翌日の回にご参加いただいた。

b. 対象：小学5年生～中学3年生と保護者（全4回）

日時：2025年10月5日（日）・10月26日（日）・11月16日（日）・12月7日（日）

午前9時30分～12時

会場：a・bともに、日高地区コミュニティセンター（豊岡市日高町国分寺850）

② 講師・スタッフによるディスカッション：「ダンスファシリテーターの役割」

特性のあるこどもたちの表現を支援する場に求められる要素を検討することを目的として、「ダンスファシリテーターの役割」をテーマに講師、スタッフでディスカッションを行い、本事業におけるダンスWSの特徴と要素を分析した。

日 時：2025年11月15日（土）14:00～16:00

会 場：芸術文化観光専門職大学 第2会議室

参加者：Danstork 千代その子氏、アシスタント2名、スタッフ1名

記録・撮影スタッフ2名

芸術文化観光専門職大学 担当教員1名、SA1名

（3）実施体制

豊岡市社会福祉課と芸術文化観光専門職大学の地域連携事業として、前年度に引き続き、2組の専門家によるプログラム提供の協力を得て実施した。

ダンスWSは、城崎を拠点にこどもダンスカンパニーの運営や様々なワークショップ、講座を運営するダンス・オーガナイゼーション「一般社団法人ダンストーク」の千代その子氏（ダンスファシリテーター）が担当した。保護者講座は、長年、豊岡市で発達支援に取り組んできた稲垣裕見子氏（トータルハーモニー代表）が担当した。また、芸術文化観光専門職大学の学生がスチューデント・アシスタントとして参加し、事業の当日運営や事業記録の補助を行った。



千代その子氏（ダンスファシリテーター）



稲垣裕見子氏（心理士）

(4) プログラム内容

①こどものためのダンスWS「ダンサーとあそぼう！うごきの実験室」

講師：千代その子（ダンスファシリテーター/ダンストーク代表）

アシスタント：小山まさし、渡辺明日香（12月6日・7日以外）



ワークショップの内容

- 自分の身体の感覚に向き合ったり、ペアやグループになって関わり合いながら様々な動きを生み出すワークを行った。また、ワークショップで体験した動きを組み合わせ、一人ひとりのアイデアや動きを活かしながら、10分程度の短いパフォーマンスを創作し、保護者の前で発表した。
- 1回完結型の内容とし、初めて参加するメンバーを含め、毎回参加者の顔ぶれが変わることから、当日の参加状況に応じて臨機応変にメニューを組み立てた。
- 会場に出入りするおともも全員名札とスタッフ証であるバッジを着用し、会場内に「セーフティーゾーン」と呼ばれるエリアを設け、事前にこどもたちにも参加する意欲がわからない場合や疲れた場合に休憩しつつ見学できることを伝え、心理的な安全に配慮した。

本事業のダンスWSでは、言語によるコミュニケーションが難しいこどもでも参加しやすいよう、身体表現を用いた活動としてダンスを取り入れている。なかでも、コンテンポラリーダンスやコミュニティダンスの考え方を基に、自由で創作的な表現を大切にしている内容となっている。これらのダンスでは、正解が一つではなく、一人ひとりの表現が尊重されることから、自己肯定感の向上や他者との関わりを育む手法として有効であると考えられる。

② 保護者のための「子育て応援講座」

講師：稲垣裕見子（心理士 / トータルハーモニー代表）

対象：小・中学生の保護者



講座の内容

長年、発達支援に取り組んできた経験豊富な心理士が、親子のコミュニケーションをテーマに、発達に特性のあるこどもへの声かけや、成長の段階を踏まえたコミュニケーションの取り方など、保護者に具体的な知識やノウハウを提供した。また、講座の後半では、ダンスWSの会場に移動し、こどもたちのパフォーマンスを見学した後に、ダンスWSのメニューの一部を保護者も10分程度体験した。

各回のテーマ

対象：小学1～4年生と保護者（全3回）

- ① 10/4（土）共感性を育てる親子コミュニケーション
- ② 10/25（土）こどもの特性を理解し、工夫を考えよう
- ③ 12/6（土）自立に向けた親子コミュニケーション

対象：小学5年生～中学3年生と保護者（全4回）

- ① 10/5（日）共感性を育てる親子コミュニケーション
- ② 10/26（日）思春期の親子コミュニケーション
- ③ 11/16（日）自立に向けて今から出来る事①
- ④ 12/7（日）自立に向けて今から出来る事②

講座の流れ

① 講師によるレクチャー

こどもの様々な気持ちや発達の特徴、親子のかかわりの工夫やコツについて資料を用いたレクチャー。参加者同士で子育ての楽しさや悩みを話し合ったりしながら進めた。

② こどもたちのダンスWSの見学とダンス体験

講座の後半では、ダンスWSの会場に移動し、こどもたちが創作したパフォーマンスを見学した。また、保護者もこどもたちが経験したダンスの一部を体験した（約10分）。

③ ふりかえりと実践

講座会場に戻り、パフォーマンスを見た感想や気づきを共有した。ダンスWSの講師も参加し、WS中の様子やワークの狙いについて話した。ダンスWS会場にこどもを迎えに行く時には、講座で学んだことを活かして、こどもたちへの接し方や言葉かけを実践した。

前年度に続き、「こどものためのダンスWS」と「保護者のための子育て応援講座」を同時開催した。内容や構成は前年度と大きな変更はないが、下記の2点を変更した。

<前年度からの変更点>

① 保護者講座の中で、保護者がこどものダンスパフォーマンスを見学するだけでなく、保護者もWSのメニューの一部をこどもと一緒に体験する時間を設けた。保護者にもこどもが体験した動きや感覚を実際に味わうことで、こどもの体験の理解を深め、こどもとのコミュニケーションを活発にすることを意図した。

② 保護者講座のふりかえり後に、こどもをダンスWS会場に迎えに行った保護者が部屋の外で待つのではなく、部屋の中まで入って来るように促した。保護者講座で学んだこどもとのコミュニケーションの取り方をすぐに実践する時間を少しでも多くとることを意図した。



2. 実施結果

(1) 参加人数

本事業は、参加者一人ひとりの特性に応じた関わりを重視するため、少人数での実施を前提とし、定員は10名とした。

- 親子参加・・・ 13組（親13名、子16名）

- 保護者だけの参加・・・ 2名

※ 参加する保護者の大半は女性で、男性は2名（うち1名は両親での参加）。

のべ参加人数

- こどものためのダンスワークショップ・・・26名

- 保護者のための「子育て応援講座」・・・25名

※ 託児利用（のべ）：5組7名

内訳

小学1～4年生と保護者

日程	こども人数	こども新規	保護者人数	保護者新規
10月4日（土）	6	5	5	4
10月25日（土）	2	0	2	0
11月15日（土）	中止	中止	中止	中止
12月6日（土）	5	1	4	1
のべ参加人数	13		11	

小学5年生～中学生と保護者

日程	こども人数	こども新規	保護者人数	保護者新規
10月5日（日）	2	1	3	2
10月26日（日）	4	2	4	2
11月16日（日）	4	0	4	1
12月7日（日）	3	0	3	0
のべ参加人数	13		14	

※新規は、2024年度も含め、初めて本プログラムに参加した人数。

(2) 広報

チラシ（2種類）を作成し、豊岡市内の全小・中学校、こども支援センター、こども家庭センター等に2025年9月に配布した（配布部数は下記の通り）。また、芸術文化観光専門職大学や一般社団法人ダンストークのSNSで広報を行った。

前年度に続き、イラストで発達に特性のあるこどもを可愛らしく表現し、全体を明るく楽しい雰囲気の色調で統一。裏面に、保護者へのメッセージとして、本事業の目的や対象を明記する形とした（デザイン・イラスト：クリエイツ）。

アンケート結果（後述）では、学校を通じたチラシ配布が主な参加動機となっており、対象家庭に直接届ける手法が有効である一方、SNS等による広報は限定的であった。今後は複数の媒体を組み合わせた周知方法の検討が必要である。

また、参加申込が少数にとどまった回があった。例えば、中止となった11月15日（土）が地域の学校行事等と日が重なっていたという声が聞かれた。開催時期や周知方法、対象設定については今後の検討課題である。



小1～4年生（3,500部）



小5～中3（4,500部）

(3) 参加者アンケート結果

① ダンスWS

参加した子どもたちが、ダンスWSの経験をどのように感じたのかを明らかにすることを目的として、参加者全員に各回の終了後にアンケートを実施した。

対 象：ダンスWS参加者（小学1年～中学2年） のべ26名

実施日：2025年10月4日（土）・10月5日（日）・10月25日（土）・10月26日（日）
11月16日（日）・12月6日（土）・12月7日（日）

実施方法：紙面アンケート（無記名）

ワークショップ終了後に会場で質問紙を配布し、その場で回収した。

質問項目：①楽しさ、②緊張、③難しさ、④またやりたいか、自由記述

配布数：26枚 回収数：26枚

アンケート結果の概要と分析

- 全体としてダンスWSの経験を「楽しい」と感じ、「またやってみたい」という回答が多い。緊張や難しさのスコアは全体的に低く抑えられている。
- 創作や発表に少し緊張や難しさを感じることもあるが、それらを乗り越えた達成感が満足度につながっていると思われる。
- 「相手のことを考えなくてはいけない」や「初めての感覚だった」などの記述があり、コミュニケーションや自分の身体に関する学びの機会になっていることが伺える。

アンケート結果

①楽しさ、②緊張、③難しさ、④またやりたいかの4項目について各回の平均値を算出したところ（表1）、10月25日（※）を除く全ての回で「楽しさ」と「またやりたい」のスコアが4を上回った。緊張や難しさのスコアは1～2前後が多く、3を上回るのは1回のみだった。

表1：こどもたちの「きもちの温度計」の平均値

回	楽しさ	緊張	難しさ	満足度
10月4日	5.00	2.17	1.83	4.50
10月5日	4.25	2.25	1.00	4.25
10月25日	3.00	1.00	2.25	1.75
10月26日	4.75	1.50	1.50	4.75
11月16日	4.75	3.63	3.25	4.25
12月6日	4.60	2.80	2.40	4.40
12月7日	4.50	0.33	0.67	4.83
全体平均	4.58	2.12	1.94	4.29

※ 10月25日の回は、参加者が2名（1家族のみ姉・弟での参加）だった。弟（T君・小学1年）のアンケート回答は、楽しさ2・緊張0・難しさ2.5・満足度0.5であったため、この回のスコアが低くなっている。なお、T君は12月6日にも参加し、その回のアンケートでは、楽しさ5・緊張0・難しさ0・満足度5であった。

自由記述欄（抜粋）

- ぜんぶおもしろいダンスばかりで、またやりたいと思いました（小1）
- ダンスを考えるのと、衣装を作るのが楽しかったです（小4）
- はじめてしたことは、自由にするダンスを人の前でしたことです（小5）
- おもしろかったことはお母さんとペーパーダンスをしたことです（小6）
- ペーパーダンスの相手のことも思って踊らないといけないので難しかった（中1）
- 「溶ける」という感覚を初めてして、快い感じだった（中1）
- 自分の体のいろんなところを動かして、すごくおもしろかったです。そして、知らない人たちとジャンプしたり、いろんな活動をして、びっくりしたこともありました。また10人くらいでやってみたいです。いい思い出になりました（小5）

② 子育て応援講座

子育て応援講座の効果を検証することを目的として、参加した保護者全員に、各回の講座終了後に会場でアンケートを実施した。

対 象：保護者講座 参加者 のべ25名

実施日：2025年10月4日（土）・10月5日（日）・10月25日（土）・10月26日（日）
11月16日（日）・12月6日（土）・12月7日（日）

実施方法：紙面アンケート（無記名）

ふりかえりの時間に会場で質問紙を配布し、その場で回収した。

配布数：25枚 回収数：25枚

・質問項目：本事業を知った媒体、満足度、ダンスWS中のこどもの様子、自由記述

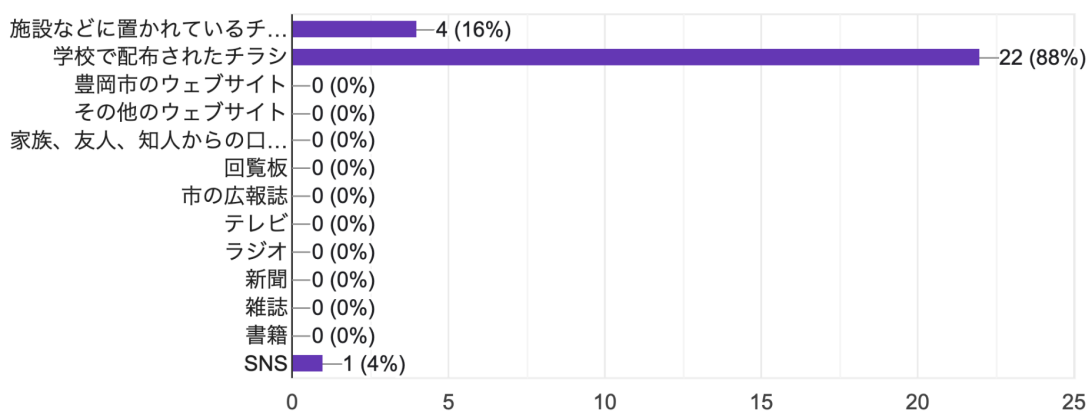
アンケート結果の概要と分析

- **講座は約9割以上が「参考になった」と評価している。**こどもへの関わり方や見守りの大切さなど、子育てへの具体的な気づきにつながっていると思われる。
- 保護者は、**ダンスを通してこどもたちが自由に表現しながら他者と協力する様子を評価**している。また、こどもにとって「いま課題になっていることを楽しみながら学ぶことができる」という回答もあった。
- 保護者のダンス体験のコメントでは、**特に親子での体験を通し、自分が先回りしてしまう関わり方への気づきや、こどもに任せて見守る大切さを実感**する声が多い。保護者自身が身体表現の難しさや楽しさを実感し、こどものダンスWSでの体験を理解することにつながっていると考えられる。

アンケート結果

① この催しをどこで知りましたか？（複数回答可。回答は全5回合計）

25件の回答

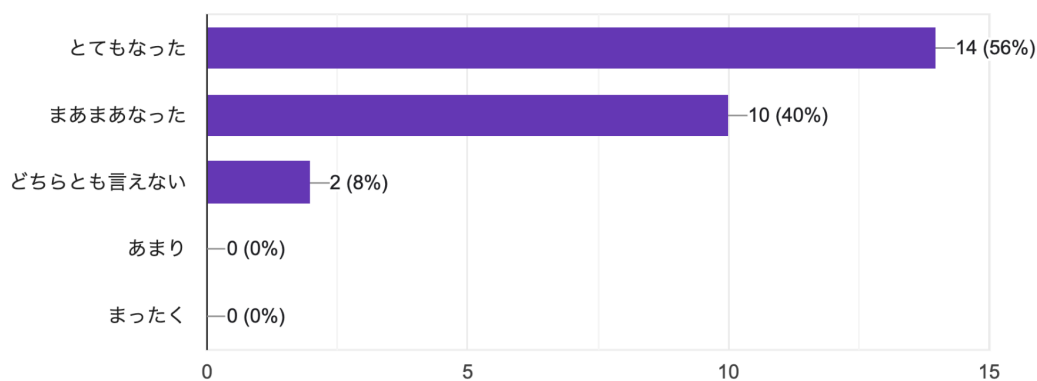


「学校で配布されたチラシ」（22件）が最も多く、周知に最も効果が高かったことが伺える。また、「施設などに置かれているチラシ」（4件）やSNSも少数ながら参加のきっかけとなっている。

② 子育て応援講座は参考になりましたか？（回答は全5回合計）

「とてもなった」（56%）、「まあまあなった」（40%）と、参加者は講座の内容がとても役立つものだったと評価した。

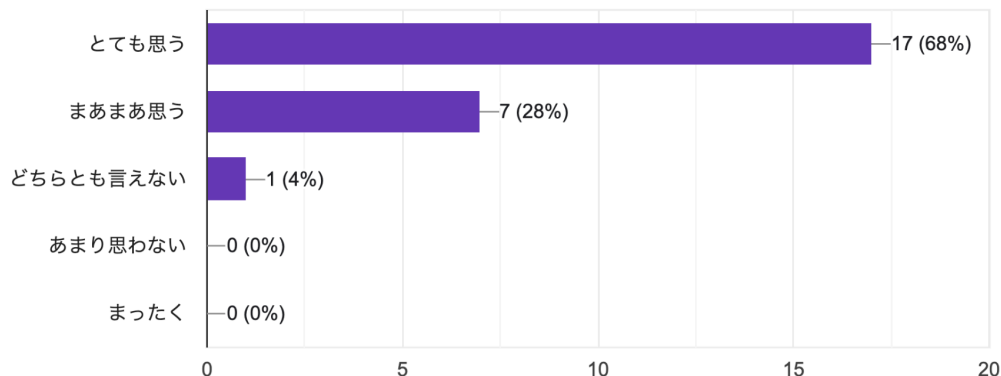
25件の回答



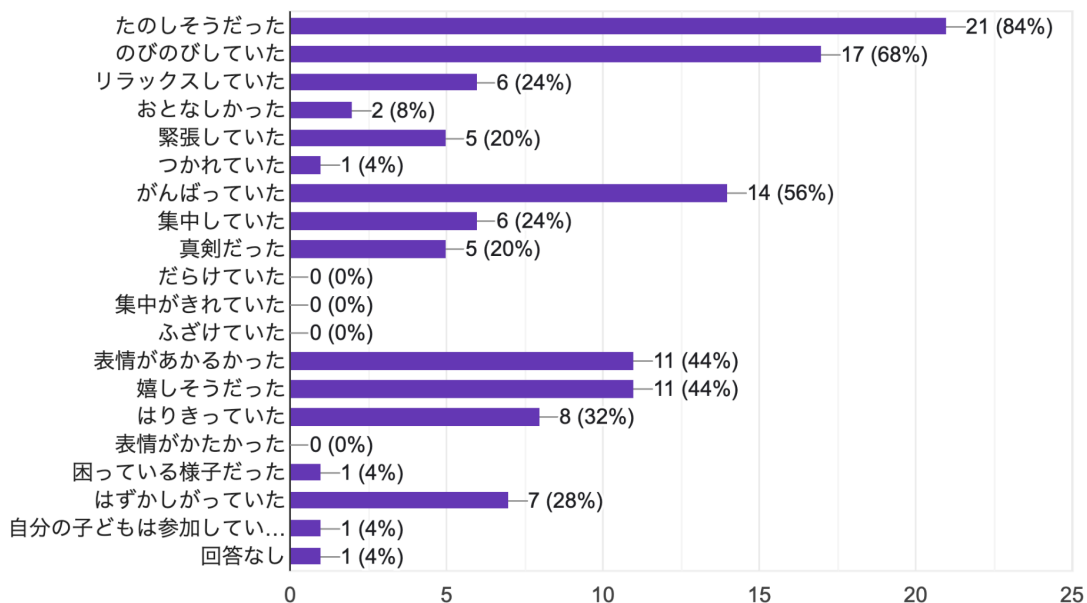
③ この催しにまた参加したいと思いますか？（回答は全5回合計）

「とても思う」（68%）・「まあまあ思う」（28%）と、講座に対する参加者の満足度はたいへん高かった。

25件の回答



④ ダンスワークショップをご覧になって、ご自身のお子さんの様子であてはまると感じるものを選んでください（複数選択可）



保護者が選んだパフォーマンス中の子どもたちの様子 上位5項目（全5回合計・回答数25）

- ① 「たのしそうだった」 (21)
- ② 「のびのびしていた」 (17)
- ③ 「がんばっていた」 (14)
- ④ 「表情が明るかった」 (11) / 「嬉しそうだった」 (11)
- ⑤ 「はりきっていた」 (8)

保護者の目から見ても、子どもたちがいきいきと、積極的にパフォーマンスに取り組んでいたことが分かる。また、保護者自身も子どもたちの澆刺とした表情や他者と協力して創作的なダンスに挑戦する姿に感銘を受けていたことが伺える。

保護者アンケート 自由記述（抜粋）

<講座の内容について>

- 講座がとてもいい情報となりました。改めて子どものできていること、自分たちが気をつけることが分かったと思います。
- 思春期に向けて親の気をつけるところ、娘の成長にとって適切な意見が聞けてよかったです。
- こちらが全部わかるのをやめて相手に選択させる、子どもに決めさせるなど、1つ上の階段で成長を見守る大切さがわかりました。
- 今の悩みがお話できてよかった。親が解決しようと動きすぎないというのが、まさに今の課題だったので次に活かしていこうと思いました。
- たくさんのお話を聞いて、やってみようということがたくさんありました。
- 自立に向けて、親が色々口出しや手出しをしすぎていたのかもと思いました。もっと本人ができるところを引き出していきたいと思います。
- タイミングが来るまでの余白を大事にしてあげたいと思いました。
- 子どもに対して、ポジティブなことは伝えているが回数は少なく、あまり何度も伝えていない。ネガティブな言葉を多くかけていたのに気づいたので気をつけたいと思います。
- のんびりペースについ口出しが多くなっていると思いました。口出ししないよう本人に任せるように見守っていこうと思います。
- これから学年があがり思春期にどういう風に接したら良いか、とても参考になった。他のお母さん方の意見もとても共感でき、自分の子育てに役に立ちそうだと思った。
- 昨年度から参加していますが、とても良い「場」になっています。親も子どもといつもと違うコミュニケーションが取れて良い。

<ダンスWSについて>

こどもの様子

- 初めての参加で、こどもが楽しく参加できるか不安でしたが、嬉しそうにダンスを発表している姿もありよかった。講座もとても参考になり、すぐに試していこうと思った。
- こどもたちが自由に楽しんでいる姿がとっても印象的でした。
- 「他の人との協調運動をする」という今、課題になっていることを楽しんで学べるダンスだったと感じました。「見る」、「視点」を意識するという点でも。
- 新しい分野のダンスに触れ合うことができ、楽しそうでした。ゆっくり動くのが大変そうでしたが、本人なりに楽しそうにできていてよかったです。
- 前回とテーマが違うだけで動きや表情も違っていて、とても見ごたえがありました。
- コンテンポラリーダンスは初めてで、こどもが好きになるかはちょっとわからない。またこどもが参加する時にやりたいと思ってくれるかドキドキしました。

保護者のダンスワークショップ体験

- 親子で体験する場面で、こどものやることを察して動いてしまっている自分がいた。こどもも私がやるだろうと、ちゃんとやっていない感じだと講師の先生が言っていた。こどものいうことを察して先にやってしまうことをやめようと思いました。
- 今回はこどもが苦手であろうことをワークショップに取り入れてもらい、親子で体験することができたことがよかった。押す・引くのバランスを考えていければと思う。
- 初めて一緒に参加して体験させていただき、けっこうハードなんだなと感じました。一緒にできて嬉しかったです。
- 一緒にダンスを経験した時、体を動かすってむずかしいと思った。恥ずかしさが勝ってしまい、また、どう体を動かせばいいか自分の思いつかなさにびっくりした。
- 講師の先生がダンスから娘の性格をすぐ理解されていて驚きました。表現することや、そういう場所がいっぱい増えると嬉しいです。

(4) 参加者インタビュー

プログラムに参加した家族（保護者と小学生2名）にインタビューを実施した。

日 時：2025年12月7日（日）12:00～12:30

場 所：日高地区コミュニティセンター 多目的ホール

対象者：Kさん（保護者・母）・Sさん（小6）・Oさん（小5）

※ Sさん・Oさんは自閉症、SさんはADHDの診断も受けている。

（講座中の保護者の発言より）

実施方法：対面・個別（1人ずつ） 小学生のインタビューには保護者も同席した。

実施時間：保護者10分、小学生5分

Kさん（保護者）

Q：きもちのミカタに参加した感想を教えてください

こどもが私と離れて、違う大人との関わりを持って、自分を表現したり、思いを伝えられたりしたのがよかったです。

Q：こどものパフォーマンスを見た感想は？

普段、こどもたちは人の動きを見ながら自分が動くとか、人の気持ちを察するとかが苦手です。自分は自分という意味で軸を持ってたりする。人の動きをみて、人がどう思うか、どう動かないといけないかというのを自分で考えて自分で動くというのが良い経験だったと思う。

Q：講座の感想を教えてください。

子育てのことを人に相談する機会がない中で、いろんな話を聞いて、今自分が悩んでいることにドンピシャな話をしてくださった。私の話を知ってましたかと思うくらい、本当に講座の中身が自分の課題にとって本当にいい話を聞かせてもらって。自分の今悩んでいることが解決に向かって、自分がどう動いたら良いかがすごく道標ができた感じなのでよかった。

Q：こどものダンスを見て気付いたこと、印象に残っていることは？

下の娘で言えば、ダンスは習っていて、言われたことをただやるのは得意だが、その中で自分の表情とか、自分をどう見てもらうか、同じ振りだけど手の動かし方とか身体の細かい使い方を自分で考えてするっていうのがすごく苦手だった。このコンテンポラリーのダンスだと、自分でどう動いて、どういう表情をして、ということを考えて表現しないといけない。そこが本人の今の課題でもあって、自分では笑っているつもりでも、見た人には伝わっていないとかいうことがある。自分で考えて自分で動くっていうのが、すごくできたんじゃないかなと。

上の娘に関しては、決められた動きをするのがすごく苦手で、それで、ダンスをすごく嫌いになっちゃって、もうやらないってなったことがあった、習ってた。でも、ここだと自分の好きなように動いたらいいし、何も間違っていないし、誰にも怒られないし、肯定してもらえるというのが、すごく楽しかったんじゃないかなと思って。今まで一般的なふりを覚えて、それを披露するダンスでは、褒められることがなかなかなくて、どんどん辛い気持ちになって、練習はするけどやっぱりうまくできないというのがあって、嫌にさせちゃったというのがあるんですけど、今はすごく楽しそうで、ダンスのイメージが変わったんじゃないかな。こんなに自分を表現することを楽しそうにしてるから、来てよかったなと思いました。

Q：初めて参加する人を誘うとしたら、何と言いますか？

初めてだから踊れないとか、難しくないし、楽しく参加してもらえたら良いなと思います。

Sさん (小6)

Q：きもちのミカタに参加した感想を教えてください

思ったよりも難しくなくて、楽しくダンスをすることができた。むずかしいフリとかせず、簡単なお題で自由に体を動かさせた。

Q：どういうところが楽しかったですか？

「チョコレートダンス」で、溶ける方とか溶かす方とか。とけてほしいところを手でさわったら相手が溶けてくれるところが楽しかった。

Q：TVで見るダンスや学校でするダンスとの違いは、どう思いますか？

TVで見る方は本格的でプロの方がやっててすごいなと思うけど、ここでは自分たちの好きなようにできるのが良いなと思いました。

Q：来たことがない人を誘うとしたら、何と言いますか？

初心者でもわかりやすいし、楽しくできるから、来てみるといいよ。

〇さん (小5)

Q：きもちのミカタに参加してみてどうでしたか？

自分の体のいろんなところを動かして楽しかったです。

Q：ダンスを習っているそうですが、そのダンスとここでやるダンスはどう違いますか？

自分のやっているダンスの方が「キレ」が多い。ここでは自分の自由にリズムに乗せて大きく踊るという感じだった。

Q：どちらが好きですか？

自分がしているダンスの方が、細かいところもピシピシしていて良いかな。

Q：来たことがない人を誘うとしたら、何と言いますか？

「自分の自由に動いたらいいから、何回でも来たらいいと思うよ」って言います。

3. 事業成果

(1) 親子並行・体験共有型プログラムによる行動・意識変容の仮説

昨年度に作成した「こども」と「保護者」の短期的な意識変化の仮説（参照：2024年度報告書）をもとに、今年度は、参加者のアンケート結果やインタビュー、講師・スタッフとの議論を踏まえて、「親子関係」という観点を加えて中長期的なアウトカムも含めて仮説を作成した（図1）。

こどもの表現活動を通じた親子並行・体験共有型プログラムによる こどもと保護者の行動・意識変容の仮説

1. 【こどもの変化】（図1中でピンクの項目）

自由で創作的なダンスWSによって、発達に特性のあるこどもでもダンス経験がないこどもでも、他者と一緒に身体を動かしたり表現することを楽しいと感じ、また、グループでの創作・発表に参加することで達成感を感じることができる。ダンスWSでの経験により、他者とのコミュニケーションに前向きになったり、自分の気持ちや考えに価値を感じ、自己肯定感が高まるきっかけになる。

2. 【保護者の変化】（図1中の黄色の項目）

保護者にこどもの発達特性や成長についての知識や、こどもとのコミュニケーションの実践的なノウハウを提供することは、保護者がこどもとの関わり方を変えるきっかけになる。また、保護者が専門家や他の保護者と出会うことで相談できるつながりを得ることができる。

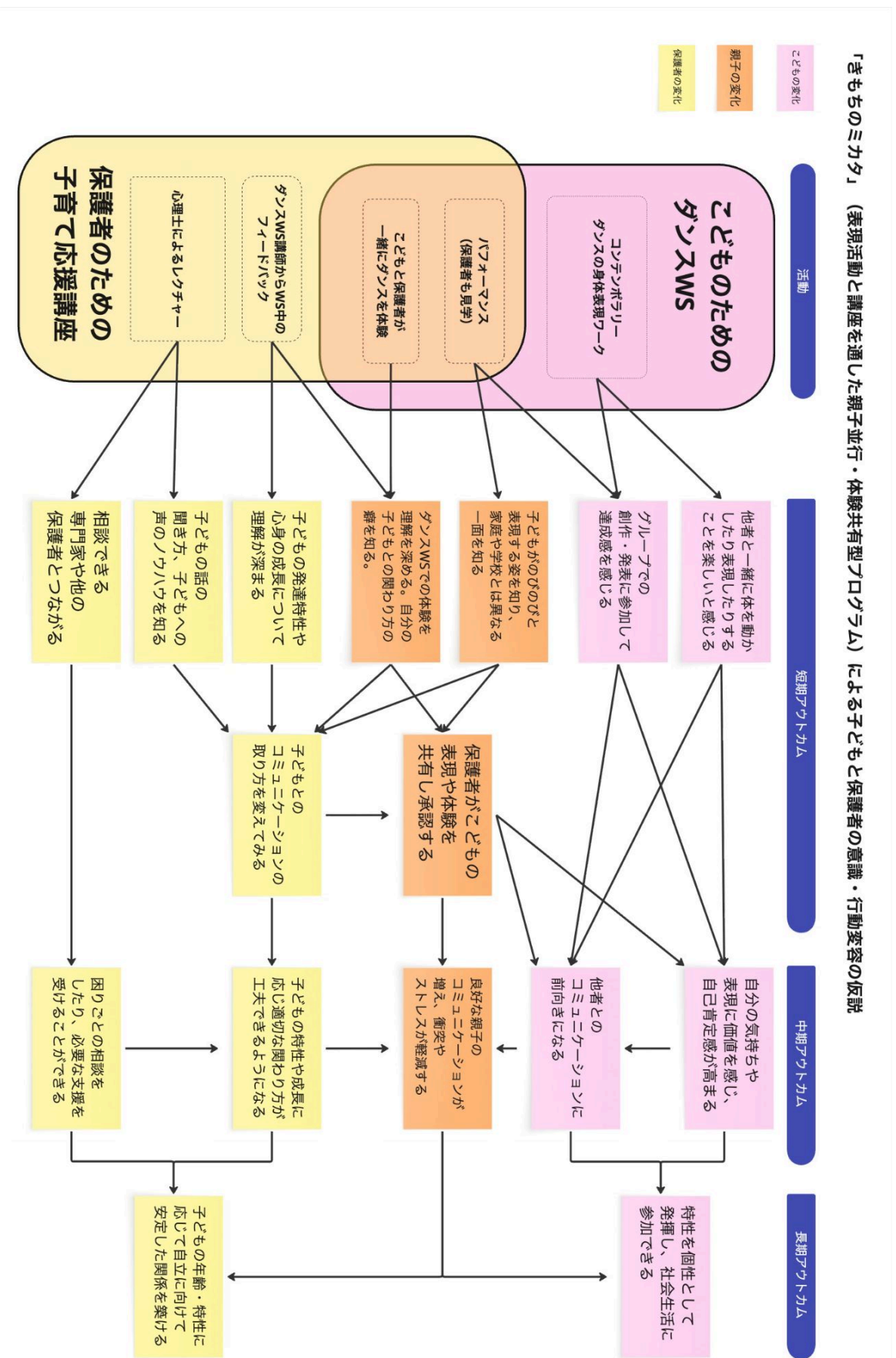
3. 【親子の変化】（図1中のオレンジの項目）

保護者が講座中にこどもがのびのびと他者と共に表現する姿を見たり、その内容を保護者自身も体験することは、保護者が講座内容やこどもの体験について理解を深め、また、自身とこどもとの関わり方を見直す良い機会となる。こどものダンスWSと保護者の講座を結びつけることで、親子にポジティブな共有体験が生まれ、良好な親子のコミュニケーションを育むきっかけとなる。

4. 【期待される成果】（図1中の長期的アウトカム）

このようなプログラムを継続的に実施することで、発達に特性のあるこどもが他者とのコミュニケーションに前向きになり、また、保護者がこどもの特性と成長段階に応じた適切なこどもとの関わりができるようになる。良好な親子関係を基盤として、発達に特性を持つこどもが特性を個性として発揮しながら自立し社会参加できる。

(図1) 参加者の意識・行動変容の仮説(2025年度作成)



(2) こどものためのダンスWSの特徴とその構成要素

本事業で実施したダンスWSは、コンテンポラリーダンス（※1）やコミュニティダンス（※2）の考え方に基づいて実施されている。前年度の報告書で整理した本事業のダンスWSの特徴を改めて整理し、掲載する。

「きもちのミカタ」のダンスWSの特徴

- **身体を使ったコミュニケーションや表現が重視される**
（言葉が苦手でも参加しやすく、他の人と関わることができる）
- **決められた振付や型を覚えるなどの正確さや成果の完成度よりも、自由さや即興性、参加者の個性を認める多様性や包摂性が重視される**
（初めてでも一緒に参加しやすく、自分のやり方やペースを大切にできる）
- **個人的なダンスの体験だけでなく、他の人と協働した創作・発表を行う**
（正解がない挑戦をグループでクリアし、達成感や自己肯定感を感じられる）

※コンテンポラリーダンス：自由な表現と創造性を重視し、既存の様式にとらわれない身体表現を特徴とする現代舞踊。

※コミュニティダンス：年齢・経験・障がいの有無等を問わず多様な人々が参加し、アーティストのリードのもと、身体表現を通じて交流や自己表現を行う芸術実践であり、地域交流や社会包摂の促進に寄与する活動。アーティストがコンテンポラリーダンスをはじめ様々なダンスの手法を用いて、参加者一人ひとりの表現や相互交流を促す役割を担う。

このような特徴を可能にする要素を検討することは、今後、発達に特性のあるこどもたちの居場所を検討する上で重要である。

11月15日に「ダンスファシリテーターの役割」をテーマとして講師・スタッフでディスカッションを行った。ダンスWS中にファシリテーターである講師が行っているこどもたちへの様々な指示の出し方や保護者との接し方などを全員で列挙し、KJ法を用いてそれらの要素と関係性を分析し、ダンスファシリテーターの役割を下記の5つに分類・整理した。



ダンスファシリテーターの役割の5つの要素

(1) 安心して参加できる環境づくり

- 丁寧な説明や見通しの視覚的な情報提示（メニューの板書やカードでの提示、休憩場所のサイン掲示など）により、活動内容が理解しやすく、不安の軽減につながっている
- 会場の環境（開放感、外部からの視線の遮断）や配慮（例：ファシリテーターやスタッフの立ち位置・姿勢、スタッフ証の着用など）により、参加しやすく安心できる雰囲気が形成されている

(2) 身体を通じた参加の促進

- 準備運動や身体をほぐす働きかけにより、参加者の緊張を緩和し、プレッシャーを与えないように参加を促している
- 講師や他の参加者とペアやグループで関わりながら行う活動が、参加の入り口となっている
- 身体の変化が、心理的な安心感や意欲の向上につながっている

(3) 言葉と非言語の両面からの働きかけ

- 言葉がけにより、安心感や参加意欲を引き出している
- 動きの提示（デモンストレーション）によって理解を補っている
- 空間の使い方や関わり方を通して、非言語的に情報を伝えている

(4) 状況に応じた柔軟な対応

- 参加者の様子に応じて、プログラム内容を調整している
- 難易度や進行を、その場の状況に合わせて変更している
- 個々の状態に応じた関わりが行われている

(5) 関係性や場の雰囲気の調整

- 参加者同士の距離感や関係性に配慮している
- 場の空気や活動のエネルギーを見ながら進行している
- 安心して関われる関係性づくりが意識されている

5つの要素の関係性

- (1) ～ (3) は、こどもたちの安心と参加を生み出す要素である。これらが土台となり、のびのびとした表現やグループでの創作や発表に挑戦する前向きで創造的な姿勢が引き出される。
- (4) ・ (5) は、こどもたちの個々の参加のモチベーションを支えつつ、グループ内の関係や全体の方向性を調整する要素である。

以上の分析から、「きもちのミカタ」のダンスWSでは、①身体を動かすことや講師や他の参加者とペアやグループで関わりながら行う活動が参加の契機となり、心理的な安心感や意欲の形成につながっている点、また、言葉だけでなく②動きや空間といった非言語的な手法によって、こどもたちの理解や見通しを支えている点に特徴がある。

さらに、ダンスファシリテーターが参加者同士の関係性や場の雰囲気といった要素に配慮しながら、その場の状況に応じて柔軟に内容や進行を調整することで、参加しやすい状態が維持されている。

発達に特性のあるこどもの居場所づくりにおいて、これらのダンスファシリテーションの特徴や手法を参考に、「安心して動ける状態」が身体的な実感として形成され、こどもたちの主体的な参加を引き出していくことが重要である。

4. おわりに～地域展開に向けた考察

(1) 地域展開に向けて

本事業での試行を通して、「こどもの表現活動を通じた親子並行・体験共有型プログラム」は、発達に特性のあるこどもの自己肯定感の向上や、保護者の意識・関わり方の変化を促す可能性が示唆された。また、こどもの成長にとって重要な土台である親子のコミュニケーションの改善にも寄与することが期待される。

今後は、豊岡市内において同様のプログラムを継続的に実施し、ニーズを持つ多くの人に参加機会を提供し、継続的な実施を通じて効果の長期的な検証を行い、プログラムの改善を重ねていくことが重要である。

なお、豊岡市が推進している運動遊び事業や演劇的手法を用いたコミュニケーション教育は、本事業と目的や対象に共通する点が多く、地域展開を検討する上で参考となる取組である。これらと比較した場合、「きもちのミカタ」は保護者講座と連動して実施する点、およびダンスという身体を用いた非言語コミュニケーションを基盤に、自由な表現と創作を重視する点に特徴がある。この特徴を活かし、豊岡市におけるこどもの教育・福祉を補完・発展させるプログラムとして位置付けていく可能性がある。

(2) 検討事項と課題

今後の地域展開に向けて、①実施方法と②対象年齢の2点について具体的な検討が必要である。

①実施方法については、大きく分けて2つの方向性が考えられる。1つは、既存の学校や施設を単位として実施する方法であり、こども園や小・中学校、市内のフリースクール等における授業や放課後活動としての実施が想定される。もう1つは、一般から参加者を募るイベント型の実施であり、子育て総合支援センターやウェルストーク等において定期的開催する方法が考えられる。

②対象年齢については、慎重な検討が求められる。本事業では、小学生から中学生までを対象としたが、実施を通して、年齢が上がるにつれて保護者とともに参加することへの抵抗感が生じやすいことや、「ダンス」という言葉自体が心理的なハードルとなる場合があることが確認された。こうした点を踏まえると、親子での参加がしやすく、先入観を持ちにくい年齢層（例えば5歳頃から小学校低学年）を中心に実施することも一つの方向性として考えられる。

また、今後の継続的な実施を想定した場合の課題として、以下の4点を挙げる。

① 講師人材

今後の地域展開における第一の課題は、こども向けワークショップおよび保護者講座を担う講師人材の確保である。本事業では、ダンスWSの講師やアシスタントが滋賀・京都・東京を拠点としており、継続的な関与には地理的・時間的な制約がある。また、保護者講座についても、発達支援の専門性と地域での実績・信頼を兼ね備えた人材の確保は容易ではない。今後は、既存講師の協力を得ながら、豊岡市・但馬地域における教育・福祉関係者と連携し、中長期的な人材確保・育成のあり方を検討する必要がある。

② 運営体制

地域展開に向けては、運営体制の構築も重要な課題である。本事業では、行政と大学の連携により広報や参加者対応を分担できたほか、毎回6～7名の学生スタッフが運営補助として参加し、受付や記録、ワークショップのアシスタント等を担った。また、専門スタッフやカメラマンによる詳細な記録と、各回のふりかえりを通じた情報共有が、プログラムの質の向上に寄与した。一方で、このような手厚い体制を継続することが難しい場合、必要な人員や役割をどのように整理し、実現可能な運営体制を構築するかが今後の課題である。

③ 参加者の対象・人数の設定と事前の情報把握

参加者の対象や人数、事前の情報把握のあり方も重要な検討課題である。今年度は、特別支援学校に通う参加者が事前申告なしに参加したケースがあり、講師の柔軟な対応により実施は可能であったが、少人数であったため対応できた側面がある。また、講師への負担も一定程度生じた。今後は、参加者の特性を踏まえた適切な人数設定や、事前に必要な情報を把握する仕組みについて検討する必要がある。

④ 保育対応

低学年のグループでは保育ニーズが高く、シルバー人材センターからの派遣により対応を行った。一方で、高齢のスタッフが中心であったため、こどもの年齢や活動内容によっては対応が難しい場面もあり、大学教職員による補助が必要となるケースも見られた。今後は、活動内容に応じた保育体制のあり方について検討が必要である。

2025年度 「きもちのミカタ」

一般社団法人ダンストーク：千代その子、橋本麻希

サポートアーティスト：小山まさし、渡辺明日香

トータルハーモニー：稲垣裕見子

撮影：イガキフォトスタジオ

芸術文化観光専門職大学：小島寛大、川上環菜

スチューデント・アシスタント

芋生留奈、酒井 希葉、竹内 南乃果

片桐 優月、佃 美咲、長友 美咲希、平石 結子

岩浅 遙夏、小柴 かずき、近藤 伶音、ジョンソン 英茉

芸術文化観光専門職大学 令和7年度 地域連携プロジェクト
(豊岡市社会福祉課 こどもの居場所づくりのための意識調査事業)

本事業にご参加、ご協力いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。